

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.115

2009/06/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 無粋だが数年の我慢



### 開花しても金網除去が出来なかった今年のササユリ (09/06/12)

一昨年蕾段階のササユリが鹿の食害に遭うことが判明し、昨年より金網設置 (80 株) を行い、開花段階で金網を除去してきました。今年は、昨年と同様範囲で 200 株に金網設置を行いました。昨年に準じて、開花段階で金網を除去したところ、その晩にことごとく食害に遭ってしまいました。やむを得ずその後は、開花後も金網設置したままでシーズンを終えました。来訪者にとっては、無粋極まりない状態でしたが、この作業の目的は種子の飛散によって分布を拡大することが目的です。来年もう一度同様の作業を行い、開花株数の推移をみてそれ以降も継続するかどうかを判断したいと考えています。金網を設置しなかったものは全て食害に遭ったわけではないので、300 株にもなれば作業自体も大変ですし、全部を食い尽くすということも無いでしょうから、金網無しで様子を観るといふことにしたいものだと考えています。



純白の個体 (09/06/13)



金網内で開花 (09/06/13)



ピンクの個体 (09/06/13)



藤澤 平さん



橋本 勘さん

### 琵琶湖森林レンジャー 2 名勤務始まる

6 月 1 日から「山門水源の森」に 2 名の琵琶湖森林レンジャーが勤務して貰うことになりました。勤務開始から未だ 20 日余りですが、日々保全作業・「やまかど・森の楽舎」等での来訪者対応等に頑張ってもらっています。しばらくの間は、研修や県の「やまのこ」学習の体験等で「山門水源の森」に出勤できない日がありますが、お訪ねの際には会員である旨を名乗って頂きご指導よろしくお願いいたします。週休 2 日の勤務体制です。

「山門水源の森」を次の世代に引き継ぐ会

<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>



## 復元北部湿原に生物続々と



北部湿原にも緑と水が (09/06/21)



モリアオガエルも

復元した北部湿原は、果たして私たちが狙っているように生物が再現してくれるのか? ササやノイバラで被われ、日射を遮っていた場所に……。トンボ類の産卵が始まるまでには、池塘に見立てた水域の徹底的な底ざらえ(産卵後では意味がない)を行ってきたのだが。5月に入ると全域にイモリや多数のシオヤトンボが飛来。次々と産卵。6月中旬、南部・中央湿原が干上がり状態になったときも、沢水が潤している北部湿原ではモリアオガエルも産卵。



カキラン (09/06/21)

植物もトキソウ・カキラン・ノハナショウブ等々が未だ株数こそ少ないものの顔を出している。昨年までの刈り払い作業によって刈り取ってしまったレンゲツツジも全域に新芽を出した株が見られる。オオミズゴケも水環境が良いため分布を拡大しつつある。

## 付属湿地来訪者に好評

湿原内での観察が出来ない代償として設置した「やまかど・森の楽舎」付属湿地の意義がここに来て再評価されています。興味の対象としての動植物の近接観察が可能ということは言うに及ばず、生態系とは何なのかを実感として把握できるフィールドとなったことです。また晴天・雨天等の気象条件が変わったときの生き物の行動も観察出来るという利点があります。子ども・大人の区別無く好評です。



付属湿地で観察する来訪者 (09/06/19)



ハッチョウトンボ羽化 (09/05/29)



クロソジギンヤンマ産卵



獲物を狙う 獲れるのは、観察し易

もっとも「美しい」・「神秘的」というきれいな事ばかりではない。生物界の命を繋ぐための激しい生存競争の場でもある。またこれらのドラマが展開されるのは、観察し易

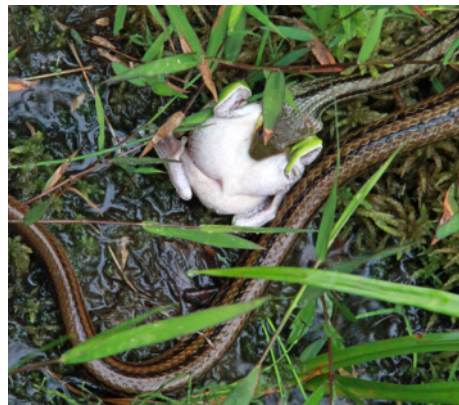


産卵に向かうモリアオガエル (09/06/22)



産卵 (09/06/22)

いい好天の昼間のみではない。いろいろな条件の時に観察を続けてはじめて生態系を理解することが出来る。したがって、「生態系」を理解して欲しいのは山々だが、多くの訪問者に全てを觀てもらうことは必ずしも適当ではない。しかし、会員は勿論のこと観察したいという来訪者には様々な生物の行動を間近で観察出来る場を提供できるようこれからも整備を進めたい。現在イシガメの産卵期に入っているが、産卵に都合がいいだろうと考えられる砂場を用意したのだが、何故か未だにその場所を利用していない。人為を感じ取っているのだろうか?



餌食になったモリアオガエル